

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港町塩口24
電話2-9772

年頭にあたって

所長 有木健二

清々しく穏やかな年明けでしたが、ここにきて寒さも厳しくなってきました。本年も皆様にとって、また子供たちや学校、地域や保護者にとって幸せの多い年でありますようお祈り申し上げます。

隠岐教育事務所でも、隠岐教育の一層の充実に向け、職員一同頑張ろうと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

正月にテレビで、幼い子供が初めておつかいに行く番組があり、いつものように泣き笑いしながら楽しみました。テレビ番組ですか



ら、多少の演出や仕掛けはあるでしょうが、それを差し引いても、子供が自分の力でおつかいをして帰ろうとする姿は思わず応援したくなります。改めて、子供が無邪気で一生懸命で、失敗したり挫折したりしながらも、のびのびとした感性やたくましい行動力を持つ存在だなあと感じました。と同時に、親が子供を励まし認める姿、お店の人がかかる声などその子を含める人々の温かな心の通い合いも感じられました。この隠岐地域でも、子供の成長をひたすら願う親を

はじめ、子供と温かく関わる学校や地域の中で子供の時期を過ごし、安心していろいろなことに挑戦したり失敗したりして欲しいなあと思います。

また、子供から青年に目を移すと、青年は大人になる前段階として自己との対話や葛藤を重ね、社会や人と関わりながら自分の生き方を考え求める経験をしなくてはもがき苦しむことのできる環境で過ごさせたいなあと思います。

しかし、自分の教職を振り返ると、子供や青年に対してその時期を早く通過させようとしていたのではと反省します。課題をクリアさせることだけが目的とならず、課題をクリアする力をつける「今」を充実させる指導や支援が足りなかったかもしれません。同じことは子供や青年を

「人材」として育てようとする視点にも当てはまると思います。子供の時期や青年の時期を精一杯生きることよりも、大人社会の要望に応じた成長を求めすぎではないでしょうか。

大人社会は今、失敗を許さず、責任を問うことだけが正義であるような風潮が強くなってきているように思います。その空気が子供や青年に必要な挑戦と失敗が安心してできない雰囲気をつくってしまったのではないのでしょうか。(かといって、子供だから青年だから無責任に何をしてもよいというつもりはありません。)

子供は子供の時期に、青年は青年の時期に、成人は成人でその時期にこそ形成できる人格があると思えます。私たち大人は「人材の育成」という理由で人格の形成を急がせることなく、子供や青年の「今」の中に

ある大切な成長や変化、願いや考えをしつかり見つけたいものです。そして必要な指導や支援を行うとともに、子供相互、子供と大人、大人と大人のよりよい関わりづくりを進める中で、人格と人材を育てていきたいと考えています。



全国 社会教育委員連合 表彰

永年、社会教育委員として、社会教育のために尽力した方を表彰する全国社会教育委員連合表彰を海士町(てんよし)社会教育委員の高松照佳氏(たかむねあけよし)が受賞されました。

高松氏は、合わせて十七年間、社会教育の振興に多大な熱意を持って取り組まれました。委員となられた

当初は、青年団の運動に深い理解と情熱を持って取り組み、地域社会の発展に尽力されました。また、任期中の四年間は、社会教育委員長として任務を全うし、グラウンドゴルフ大会を始めとする様々な社会体育活動や社会教育委員研修会等の各種事業に積極的に参加し、建設的な意見を述べられるなど事業の発展に寄与されました。

これらの功績が認められ、島根県の推薦により、千葉県で行われた平成二十八年度全国社会教育研究会にて表彰されました。

隠岐地区社会教育委員連絡協議会でも報告があり、今後の活動の糧としていきたいと会員の皆さんで賞賛いたしました(文責 林)

